



令和6年度 社会福祉法人こうち福祉会事業報告

障害福祉サービス事業	Ⅰ. ライフ・ステージ	あおぞらセンター	(定員 30 名、支援員 6 名)
	Ⅱ. ライフ・ステージ	蒼空舎	(定員 40 名、支援員 9 名)
	Ⅲ. ライフ・ステージ	第2あおぞら	(定員 20 名、支援員 4 名)
	Ⅳ. ライフ・タウン	あおぞらホーム	(定員 104 名)
	Ⅴ. ライフ・タウン	蒼空舎ホーム	(定員 9 名)
相談支援事業	Ⅵ. ライフ・サポート	あおぞら	

Ⅰ. ライフ・ステージ あおぞらセンター

A. いきいき工房 クッション、菓子袋詰め、薬味入れ、乾燥こんにゃく

サービス管理責任者 : 林 愛佳

1、メンバー活動

・一人一人の障害特性に応じ、個室の提供や苦手な利用者との距離を保つよう個別の対応を行っている。

・毎日の検温、必要時の手洗い、うがい、消毒を習慣にできるよう見守り、言葉がけを行った。またマスク着用や冷暖房を利用しながら常に換気を行った。

・希望者には、ほぐしケースを使用してもらい、ブレンド作業では吸塵器を取り付けてホコリ対策を行った。メンバーにはメガネ、マスク、白衣、帽子を着用してもらい、作業終了後には身体に付いたホコリはハタキで除けた。

・作業前には量りの目盛りにズレが無いが支援員が確認を行い、シールを貼った所を目印に定められた量での計量の徹底を行った。また、汚れや不純物がある場合は支援員に声掛けする等、品質維持を心掛けた。

・食品内職については、直接口に入れる食品を計量しているため、別室で作業を行った。(菓子袋詰め、だしパック、乾燥糸こんにゃく)

・月2回の「あおぞらで歌おう」や月1回の「あおぞら体操」「いきいき100歳体操」、季節に応じた外出での行事を取り入れ作業とのメリハリをつけている。

・毎朝の30分の散歩と、コロナウィルスやインフルエンザ等の感染防止に気を付けながら、余暇活動の提供を行ってきた。

・作業だけでなく、日中生活全体を通して、コップ洗いや歯磨き支援、衣類の衣替えなど生活スキルが身につくよう、支援者と一緒に行った。また、自宅から通所している利用者については洗濯を一緒に干して将来の居住地での活動の経験を積んでもらえるような支援を行ってきた。



2、作業内容

環境機器		高知県特産品販売		その他	
すいとる S	218 箱	ミレービスケット		乾燥糸こんにゃく	177 袋
すいとるシート	10 箱	×芋けんぴ	45,620 袋	薬味入れ	42,500 個
すいとる L	36 箱	土佐の生姜飴	4,519 袋		
すいとるオイル 2L	146 箱	鰹だしパック	1,462 袋		
すいとるオイル 5L	226 箱	乾燥ゆず皮	483 袋		



3、今後の課題

あおぞらセンター全体の利用者 30 名中 14 名が強度行動障害の加算対象者となっており、平均区分 4.43 となっている。障害特性に応じた個別の対応を行っている。

内職作業では令和 6 年度より新たに鰹だしパックの製品包装、乾燥ゆず皮の製造が加わった。利用者が作業をしていて、分かりやすくやりやすいよう作業物の工夫や支援を行ってきた。様々な作業があるが、どの作業も利用者が自ら進んでやろうとする環境作りを構築していく。

B. あおぞらファクトリー あみおり工房

1、メンバー活動

- ・ミシン、検品、結束の工程を行ってきた。
- ・いきいき工房と同様に検温、手洗い、消毒、うがいを習慣できるように見守り、言葉がけを行ってきた。
- ・散歩、体操、歌、外出行事も同様に取り入れて、作業とのメリハリをつけた。
- ・検品針やピンセットは先がとがっており危険なため、安全に使用できるように見守りや言葉がけを行ってきたが、言葉で理解できない利用者については、写真で掲示をした。



2、作業内容

・ICT を利用しながら伝票を書いたり、入出庫を記入することで、蒼空舎と連携を取りながら、在庫確保に努めてきた。

3、今後の課題

蒼空舎、春乃群青との連携を図り在庫確保に努める。また、品質を落とさないように支援者が共通した認識でチェックを行っていく。



C. あおぞらカントリー 花ハウス

支援員：谷脇 豊実

1、メンバー活動

- ・花ハウスでの花苗の生産～出荷までを行った。(種まき→鉢上げ→手入れ→出荷)
- ・それぞれの工程にメンバーの適性を見極めて得意な作業を提供し生産効率を向上した。
- ・作業終了時、トイレ後の手洗いの徹底。
- ・熱中症対策を徹底していく。休憩時間の確保、水分補給の確認。

2、作業内容

- ・年間生産ポット数 およそ2万ポット
- ・高知灯台 プランター維持管理作業（通年、およそ900ポット展示）
- ・城西公園 市民花壇用ポット納品
- ・フジグラン高知 店舗東側花壇維持管理作業
- ・高知大学朝倉キャンパス （年間2000ポット納品）
- ・ハウス前、センター前 良心市販売
- ・ネッツトヨタ南国、藤田クリニック 毎月プランター納品
- ・保育園、公立小中学校への販売



3、今後の課題

- ・メンバーの作業幅を広げるように作業を提供していく。得意な作業を増やせるようにチャレンジする機会を増やしていく。
- ・定番商品だけではなく、栽培が少し難しい花卉の栽培を行っていき、お客さんに飽きられないような商品ラインナップに努める。
- ・メンバーの特性理解に努め、支援員間で情報共有をしていく。

D. よさこい工房 食品加工

支援員：天野陽太

1、メンバー活動

- ・それぞれの力量に合った作業をする中で、梱包材の組立や販売業務など今まで職員がやってきたことにも一部挑戦し、さらなる力量アップに努めた。
- ・2025年1月から1名新しいメンバーを迎えた。一つ一つ丁寧に作業することを意識し、作業指導・支援をした。
- ・狭いスペースでの作業の為、すれ違いの際の接触等で利用者同士のトラブルが散見された。都度双方の話をその場で聞き、その場で解決できるように努めた。また、どうしても相性の悪い利用者同士では、作業時の立ち位置を工夫したり、別々で作業をさせるなどの対応を行った。
- ・食品を扱っているため、衛生面に関する意識を高めるために、衛生マニュアルの読み合わせを実施。また5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）を徹底するために、毎朝の朝礼で作業内容の確認とともに5Sの確認をした。

2、作業内容

（加工食品製造）

・材料の下処理

ジャム類やおかず味噌、佃煮等の原材料を一次加工する。フルーツの皮むきや実のほぐし、カットやスライスなどをして、シーラー後冷凍保存。



・瓶詰め

炊きあがったジャムやおかず味噌を計量し、瓶詰。

・ラベル貼り、シュリンク装着

商品へのラベル・シール貼り、シュリンクの熱圧着作業。

（どくだみ作業）

- ・どくだみの収穫をし、一本一本清掃しカットする作業。また、商品化のための日干し作業。



3、今後の課題

（メンバーに関して）課題：力量アップ、安定した作業

- ・作業工程の力量をアップさせて、職員が実施している作業に挑戦し、習得する。
- ・丁寧な作業を徹底させ、集中力の継続や作業効率を向上させる。
- ・作業開始と終了の報告、連絡、相談を徹底する。
- ・メンバー間でのトラブルを早めに気づき、適切な対応と共通した支援を実施していく。

（販売に関して）課題：利益拡充、マニュアル化

- ・継続性のある優良な顧客との取引を増やしていく。
- ・原価高騰に応じて、値上げを実施していく。
- ・マニュアルを作成し、作業や仕事内容が属人的にならないようにしていく。
- ・導入したシステムを更に活用し、事務処理の負担軽減を図っていく。

（製造に関して）課題：生産性向上、クレームゼロ

- ・製造効率を上げるため、工程の見直しや改善を検討する。
- ・顧客のフィードバックに応じて、味の改良を図っていく。
- ・スムーズな作業を実施する為、作業場や機材等の配置を再検討する。
- ・クレームゼロを目指し、職員やメンバーの衛生管理などを徹底していく。

（全体）課題：業務負担の軽減、事業拡大

- ・商品ラインナップの見直し、仕入れ先の再選定などを視野に入れ、より高率的・効果的な仕組みを構築する必要がある。
- ・事業所としてメンバーの増員を見据え、作業場所や工程の見直しをしていく。
- ・機械化、IT化を進め、業務・作業の負担軽減を図る。
- ・事業自体をシンプルにし、合理的な事業拡大を目指す。



生活介護 お楽しみ活動

お花見ドライブ（春野運動公園）（4月2日）

ライオンズクラブ シネコン映画鑑賞（4月11日）

イエローレシート買い物（5月9日）

スポーツ大会 練習（5月16日）

障がい者スポーツ大会（5月26日）

あじさい鑑賞（6月13日）

バーベキュー（7月23日）



健康診断 西病院 (10月2日)
芋堀り、カラオケ大会 (10月31日)
焼き芋 (11月28日)
もちつき大会 (12月18日)
クリスマス会 (12月25日)
新年祝してあおぞらで歌おう (2月13日)
お花見に行こう (3月27日)
あおぞら体操 (講師を招いて、毎月1～2回程度)
あおぞらで歌おう (講師を招いて、月2回)
いきいき100歳体操 (月1～2回程度)
あおぞら会 (月1回)
移動図書館 (第2水曜/月1回)
あおぞら映画鑑賞会 (月1回)
陶芸教室 (月1回)



II. ライフ・ステージ 蒼空舎

A. あおぞらファクトリー おみおい工房

管理者 : 黒沢 圭子

1、メンバー活動

- ・メンバー1人1人の障害特性に配慮し、安定して過ごせるよう支援を行った。
- ・作業量については、個々の目標数を設定し、達成感を感じ意欲に繋げていけるよう支援を行った。
- ・希望するメンバーについては、納品にも同行し、製品の利用シーンに触れ、具体的なイメージが持てるよう支援を行った。また、顧客とのやり取りを通じて、礼儀やマナーを身につけていけるよう支援を行った。



- ・作業用軍手の製造販売

メンバーは、ミシン、検品、結束の工程に分かれて作業を行う。
顧客からの注文に、柔軟に対応できるよう、在庫確保に取り組んだ。



年間販売数

単位：ダース

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
1692	1631	1473	1854	1294	1735	1665
11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
1776	2186	1514	1820	1424	20064	

- ・下請け作業（防寒用手袋、靴下）

温暖化、安価な中国製の影響を受け、作業量は減少した。だが、作業時期（4 月～9 月）には、短期間での納期となり、作業に追われることも多かった。

3、今後の課題

- ・個別対応が必要なメンバーへの支援
- ・原材料費の高騰
- ・フタガミでの販売強化
- ・販売管理システムの有効活用



B. あおぞらカントリー 畑ばたけ

リーダー：宮内 知志

1、メンバー活動

自立支援：農業生産活動を通し個々に見合った作業を提供した。また、メンバー同士で協力しながら作業できるよう支援を行った。

適正な作業：メンバーの健康のため気温・天候が変化する状況に応じて作業内容を変更した。また、必要に応じていつでも水分補給できるよう準備していた。

清潔・不潔の区別：メンバーの健康を維持し、感染症の予防に繋がるよう手洗いうがいや、汚れを施設に持ち込まないなど清潔動作の支援を行った。

2、作業内容

（1）果樹栽培

- ・幼木の植え付けから圃場管理、栽培管理を行った。メンバーの主な作業としては、植穴づくり、草刈り・剪定後の草や小木の回収作業をする。また、今年度はミノムシが大量発生しておりそれを捕殺する作業を行った。

果樹栽培の主な品目として桃を栽培している。来年度は幾分か収量に見込みあり。



(2) 露地栽培

- ・一年を通しての旬菜栽培。メンバーの主な作業として畑準備、播種から定植、収穫から出荷準備を行った。
- ・さつまいも、大根の栽培において高温による障害により失敗した。その他の作物に関しては例年通り安定した栽培ができた。



(3) 椎茸栽培

- ・仕入れ

原木：大洲市森林組合（森産業㈱）にて 4,000 本仕入れる。

種駒：森産業㈱にて品種：にく丸・鈴之助を仕入れる。

備品：量販店や通販等、最安値を調べて仕入れる。

- ・栽培・出荷

作業は接種、仮伏せ、本伏せ、収穫、選別、袋詰め、配達を職員 1～2 名、利用者 4 名で行い、特に収穫、選別、出荷作業は他の作業が終わった職員に応援して対応した。現状、常駐している利用者が行える作業は接種、仮伏せ、本伏せの作業のみになっている。本年度は特に成長期の時に気温の変化が大きく収穫量が著しく減少してしまったり、病害が一部大きく出たりで栽培が安定しない結果となった。

- ・販売

販売先は野市青果、センター前良心市、サンシャイン（太陽市）、JA（春の里）、とさのさと、サニーマート（六泉寺、瀬戸）、A-MAX（一宮）、土といのち、日曜市、バザー、個人向けで販売を行った。C 品はよさこい工房にてスライス、乾燥椎茸にして販売を行った。



(4) きくらげ栽培

- ・仕入れ

菌床：森産業㈱にて 1,200 床を仕入れる。

備品：量販店や通販等、最安値を調べて仕入れる。

- ・栽培・出荷

今回、4 月・5 月・7 月と 3 回に分けて菌床を導入し 4 月～10 月までの約 7 か月間、栽培しました。作業は収穫、手入れ、洗い、選別、パック詰め、配達を職員 1 名、利用者 1 名が常駐し収穫量によって人員を増員することで対応した。菌床導入数を増やせば生産量は増えたが、作業を安定して行える利用者が育てられていない、販路拡大が予想より進まなかった、7、8 月の高温異常で良品が育てられなかった等の問題がある。課題としてまずは職員の栽培能力、利用者の作業能力の向上を進めていく。

・販売

販売先はサンシャイン（太陽市）、JA（春の里）、とさのさと、サニーマート（六泉寺、瀬戸）、A-MAX（一宮）、日曜市、個人向けで販売を行った。また乾燥ハウスで天日干しした乾燥きくらげをよさこい工房、給食、土佐蒲鉾にて購入して頂いき、日曜市でも販売を行った。

（５）ニラ調整作業（野市青果委託）

本作業は、メンバー6名と職員3名の体制で進めてきました。ニラの品質により、生産量には大きな変動が見られました。状態が良好な際には40箱以上の仕上げが可能でしたが、状態が悪い際には8箱以下にとどまることもありました。

そぐり機について・・・メンバー5名が安定して作業に取り組めるようになり、欠席時も交代で対応可能な体制が整いました。

手入れについて・・・そぐり過ぎや除去の偏りが影響し、仕上がり量が不安定な状況です。

計量について・・・・メンバー5名で「手入れをしながら」「手入れ済み」の2パターンで作業を進めました。手入れ済みでは作業速度が向上し、目標以上の作業量を達成しました。

結束機について・・・・職員1人で最終検品と箱詰めを行いました。

作業賃 1束10円 1箱50束500円

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
作業量（箱）	2,114	5,638	3,384	3,344	6,044
仕上り（箱）	1,745	4,836	3,621	3,695	4,856

※仕上り1束100g、1箱50束。

当事業は令和元年11月に開始し、本年10月で5年が経過しました。しかしながら、作業量および仕上がりの安定性に課題があり、加えて、野市までの朝の原材料の預かりおよび夕方の納品のため、毎日約120kmの車移動を行う状況が続いておりました。この移動に伴うガソリン価格の高騰により経費が増加し、事業運営に大きな影響を及ぼしました。

5年間の収支を精査した結果、毎年赤字が続いていることが判明しました。この状況を総合的に判断し、事業の継続は困難であるとの結論に至り12月31日撤退しました。

3、今後の課題

・畑全体を通して、近年気候変動による高温日数の増加が生産活動に大きく影響している。

今後の栽培管理の見直し、品種の選定など対応策が必要。

・原木・キクラゲ・露地・果樹栽培と多岐にわたり事業を展開している。あまり使用していない圃場や近年の気候変化に対応しがたい圃場などは返却していくことを検討し整理していく。

C. 配食・グループホーム献立、食材配給

リーダー：川村 哲也

1、メンバー活動

メンバーへの支援においては、各支援員が個々の障がい特性を深く理解し、情報共有を徹底することで、活動の中でやりがいを感じ、安定や喜びを得られるよう努めました。

また、日々の検温と体調管理を実施し、こまめな手洗いを習慣づけることで、感染予防に最大限の努力を行いました。

2、作業内容

GH 入居者への食材提供においては、包丁を使用してカット、計量、袋詰め作業を行い、検品表によるチェックとダブルチェックを徹底しました。また、必要な食材の配達や買い出しを実施し、安定した供給に努めました。さらに、蒼空舎で栽培した野菜については、重さ別の選別作業を行い、適切な形で活用できるよう管理しました。

3、今後の課題

令和5年11月と令和6年6月に2回の試験運用（GH 半分程度）を実施し、肉と魚の仕入れ先がそのまま活用可能であることを確認しました。この結果を受け、令和6年3月より全グループホームにおいて本格的な運用を円滑に開始しました。

1 か月間の運用を通じて、以下の課題が明らかとなりました。

- ・メンバーの包丁技術の向上と食材名の習得
- ・賞味期限の短い食材に対する適切な発注先の選定
- ・賞味期限の長い食材の在庫確保
- ・安価かつ新鮮な食材の購入先の選定

今後は、これらの課題に取り組み、より安定した食材の提供とメンバーのスキル向上を図るための取り組みを進めることとなりました。

D. あおぞらファクトリー 野菜工房 蒼空舎従たる事業所

リーダー：江渕 恵

1、メンバー活動

- ・作業能力、作業精度の向上を目指して、個々にあった作業配置を検討し支援を行った。
- ・メンバーの体調管理の為、年1回の健康診断の実施。



- ・玄関での検温、手指消毒を継続し、定期的に手洗い、手指消毒の講習を行った。
- ・年末に忘年会を兼ねた茶話会を行い、くじ引き、ダーツ等メンバー全員で楽しむ事が出来た。



2、作業内容

サニーマート総菜工場：野菜の下処理、冷凍、粉の計量、袋詰め

午前中に作業し午後納品に間に合うように、メンバーの作業配置の検討を日々行ってきた。

北川村ゆず王国：ゆずトリミング

ゆず専任のメンバーを朝からゆず作業に入れる等作業量アップを目指してきた。

やまくに：いりこ割、いりこ粉の計量作業

作業できるメンバーが少ない為、新しく作業に入れるメンバーの育成を行った。

よさこい工房：生姜、文旦の皮はぎ、スライス

メンバーを多く配置し作業のスピードアップを目指した。

3、今後の課題

- ・包丁作業が出来るメンバーの育成。
- ・メンバー一人一人の作業能力の向上。
- ・作業量アップの為の工程の見直し。



E. あおぞらカンパニー

サービス管理責任者：黒沢 圭子

1、メンバー活動

- ・施設内の高齢者には、十分に配慮しながら、安全に作業を行った。
- ・作業手順にそって作業を行い、支援員が点検確認を行い、丁寧な作業への取組みを行った。
- ・感染対策として、入室前の検温、マスク着用、手洗い消毒を徹底した。
- ・メンバー及び職員に、発熱者が発生した場合には、直ちに委託先施設長に報告し、指示を受けて対応を行った。
- ・委託先利用者にコロナ等の感染者が発生した場合には、委託先施設長の指示の基、エリア内の立ち入りを一定期間禁止し、作業を継続した。

2、作業内容

- ・シーサイドホーム桂浜・つむぐ…メンテナンス業務

公休日：水曜日、1月1日・2日

時 間：9:00～16:30



3、今後の課題

- ・メンバーが蒼空舎に出勤（水曜日）した際の作業についてのスケジュール化をする。
- ・メンバーの高齢化に対応する為のメンバー育成。



Ⅲ. ライフ・ステージ 第2あおぞら

A. リサイクルショップ、あおぞらショップ、バザー、メール便

管理者：下元 真人

1、メンバー活動

- ・メンバーの希望や目標をもとに支援計画を作成、それに沿って支援を実施した。
- ・作業を通して働く喜びや達成感を持てるよう、また同時に社会性を身につけてもらえるように支援した。
- ・いろいろな作業にも取り組んでもらうことで、メンバー個々の成長を支援した。
- ・健康管理・体力づくりを目標に取り組んだ。



レジ打ち接客をしています。

2、作業内容

①リサイクル販売

店舗のレイアウトや接客体制を見直し、改善に努めた。新規のお客様の来店も増え、にぎわうようになった。売り上げも目標を超えることが出来た。

②あおぞらショップ（食品等仕入れ販売）

特別支援学校や行政等との関係づくり、メンバーの活動範囲を広げることを目標として取り組んだ。今年度も新高梨の収穫が少なく取り組みが出来なかった。文旦は例年通りの収穫があり、注文数をこなすことが出来た。



店内整理中！

③ダンボール、新聞、本、金属等の回収

個人からの回収依頼が少なく売り上げが低迷した。

④フリーマーケット

令和6年度は5回の開催。出店者の高齢化等により、出店者数も少なかった。中央公園工事のため秋から年末にかけて開催できなかった。

⑤郵メール便 収入実績

1日60冊で契約、冊数が少ない日も60冊分の工賃保障があり、クロネコヤマトのDM便に比べると収入は倍増している。

⑥自販機 収入実績

昨年度とほぼ変わらない売り上げだった。一般家庭からの空瓶の持ち込みが多く、対応に苦慮した。

⑦清掃作業収入実績

アイフル(4カ所)・アコム(3カ所)の無人店舗清掃

- ・6月～10月頃、カメムシの異常発生があり、アコムは週2回を3回、アイフルは週1回を2回に増やして対応。

芸術学園清掃

- ・毎週水曜日、午後一時間程度の作業。

ケアハウス土佐清掃

- ・平日午前中、お風呂の清掃作業を実施。



床を綺麗にしっかりと



トイレ掃除を丁寧に



風呂清掃をくまなく確認

3、今後の課題

- ・職員の支援体制の見直し。
- ・工賃アップを目的とした新しい作業への取り組み。
- ・技能実習生に対する対応。

工賃について

こうち樞社会

工賃については、各事業の授産収入から必要経費を差し引いたものを、各事業に従事したメンバーに配分をする。また、基本給については、工賃評価基準表に基づき10段階評価し、皆勤賞をとりいれ、支給している。評価については1年に1回行うものとする。但し、必要がある場合は、随時、評価の見直しを行う。

(目的)

第1条 この規定は、利用者に対して授産収入を工賃として配分するための基準を定めるものです。

(定義)

第2条 工賃とは、授産収入から授産事業に必要な所定の経費を差し引いたもので、給料として支給することにより、労働意欲を高め、生活に潤いを与え、地域生活への移行助長を図るものです。

(工賃の種類)

第3条 工賃の種類は、職能給、諸手当及び賞与とします。

- 1 職能給は評価基準表により算出されたものとします。
- 2 諸手当は、皆勤手当とします。
- 3 賞与は授産収入の状況に応じて支給します。

(支給額)

第4条 工賃は日給制で、支給額は、次により算出した額とします。

- 1 職能給 評価基準表により利用者の作業態度及び作業能力を評価した点数により設定し、設定された単価に出勤日数をかけたもので算出をします。
- 2 皆勤手当 月毎に支給をします。
- 3 ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウィルスの欠勤支給
発症日より2週間内の作業日については日給を支給する。皆勤手当は欠給とする。
尚、給食は3日間を徴収する。

(支給日)

第5条 毎月の工賃の支給は、月末を締め日とし、翌月5日を支給日とする。賞与は、7月と12月に支給する。但し、支給日が休日にあたる場合は、翌日を支給日とします。

(勤務)

第6条 1日の勤務時間は、各作業毎に設定。半日以内の遅刻、早退については、2分の1出勤とします。また、半日を超える遅刻・早退については欠勤とします。

(作業評価)

第7条 作業評価は、別表の工賃評価基準により評価するものとし、年度末（3月）に評価会議を開催して評価を行います。但し、特に必要がある場合は随時評価の見直しを行うものとします。

新規利用者の作業評価は、利用開始から3か月後に行うこととします。

(評価会議)

第8条 評価会議は、工賃評価基準をもとに審議するものとし、施設長、管理者、サービス管理責任者、作業及び生活支援者等により構成します。

(諸帳簿)

第9条 工賃の支給状況を常に明確にするため、次の簿冊を備えるものとします。

- 1 工賃集計表
- 2 作業日誌
- 3 作業評価表

(特別休暇)

第10条 利用者に次の各号のいずれかに該当する事情が生じた場合または願い出により、所定の日数の特別休暇が与えられます。また、特別休暇は有給とし、その間に休日があるときはこれを控除する。

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1 本人が結婚するとき | 5日以内 |
| 2 子が結婚するとき | 3日以内 |
| 3 配偶者が出産するとき | 3日以内 |
| 4 配偶者、父母、子が死亡したとき | 3日以内 |
| 5 兄弟姉妹、配偶者の父母が死亡したとき | 3日以内 |
| 6 祖父母、叔父叔母が死亡したときは無給とするが、皆勤の対象とする | 3日以内 |
| 7 これにかかわる欠食については請求の対象としない | |

(その他)

第11条 この規定に定めていない細部の事項については自治会及び職員会で協議の上で対処する。

附則

この規定は、平成21年4月 1日から施行する。

この規定は、平成22年4月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成24年1月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成26年7月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、令和 3年7月30日から一部改訂して施行する。

こうち稲社会 事業所別工賃実態

いきいき工房、手袋、畑（センター・蒼空舎）、野菜加工（ファクトリー）、
G就労、第2あおぞら、よさこい工房（内部実習）

令和6年度末の評価ごとの工賃については下記の通りとなっている。

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
いきいき工房 基本日給	1200	1000	850	700	550
該当者	0人	1人	0人	1人	1人
野菜加工 基本日給	2,500	2,100	1,700	1,300	1,050
該当者	0人	0人	0人	1人	4人
てぶくろ 基本日給	1,300	1,100	900	700	600
該当者	1人	4人	1人	3人	6人
畑（センター） 基本日給	1300	1100	800	750	600
該当者	0人	1人	1人	1人	0人
畑（蒼空舎） 基本日給	2,300	1,900	1,500	1,100	900
該当者	0人	1人	0人	5人	2人
G就労 基本日給	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
該当者	0人	0人	0人	1人	3人
第2あおぞら 基本日給	1500	1350	1200	1100	1000
該当者	0人	0人	0人	0人	3人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
いきいき工房 基本日給	400	300	200	100	0
該当者	3人	1人	2人	2人	1人
野菜加工 基本日給	900	800	700	600	500
該当者	4人	3人	1人	0人	0人

てぶくろ 基本日給	500	400	300	250	200
該当者	3 人	2 人	0 人	0 人	0 人
畑（センター） 基本日給	500	400	300	200	100
該当者	0 人	1 人	1 人	1 人	1 人
畑（蒼空舎） 基本日給	700	500	400	300	200
該当者	1 人	1 人	0 人	0 人	0 人
G 就労 基本日給	1,100	1,000	900	800	700
該当者	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
第2あおぞら 基本日給	900	800	700	600	500
該当者	3 人	6 人	8 人		

よさこい工房（内部実習）

基本月給（円）	88,000	52,800	26,400
基本日給（円）	4,000	2,400	1,200
基本時給（円）	500	300	150
該当者	1 人	1 人	2 人

令和6年度 工賃実績・令和7年度 工賃目標

蒼空舎：就労継続支援B型

※高知県平均工賃月額の算定方法により算出

事業	員数	工賃実績 (令和6年度)	工賃目標 (令和7年度)
蒼空舎 合計	42 人	12,832,986 円	14,112,000 円
〃 平均	42 人	27,281 円	28,000 円

第2あおぞら：就労継続支援B型

※高知県平均工賃月額の算定方法により算出

事業	員数	工賃実績 (令和6年度)	工賃目標 (令和7年度)
第2あおぞら 合計	20 人	4,861,800 円	5,400,000 円
〃 平均	20 人	22,139 円	22,500 円

事業	員数	工賃実績 (令和6年度)
あおぞら 合計	31人	4,592,225円
〃 平均	31人	12,344円

給食弁当

ライフ・ステージ 蒼 空 舎
あおぞらセンター
第2あおぞら

食品衛生責任者：久米ゆかり

1、嗜好調査と平均所要カロリーの摂取について

- ・5月には嗜好調査、栄養所要量の算定を行い、献立作成に役立て、毎日の献立が年齢別、性別、労作に見合った内容となるように食事の提供に努めた。食物アレルギーの人に関しては、除去し、別のものに対応した。
- ・どうしても食べられない人には、細かく切る、少なく入れるなど、少しでも口に入れられるようにした。
- ・肥満傾向の人や、カロリー制限が必要な人に関しては、ご飯の量を少なく入れるようにしてバランスをとっている。
- ・毎日の給食摂取量と、体重（年2回）を記録している。
- ・毎月の献立を、家庭、グループホームに配布し、1日30品目を目指し、バランスの取れた食事を心がけてもらった。
- ・新しい献立、行事食、利用者のリクエストメニューを取り入れている。行事食では、その都度話し合いをし、7月の七夕、8月のバーベキュー、12月のクリスマス、2月の節分、3月のひな祭り、お花見等には、巻き寿司、ちらし寿司、炊き込みご飯、デザートなど、季節の物を取り入れ、彩りよく仕上げた。



2、食材に関して

- ・「自家農園」の収穫物の時期には畑班との連絡をこまめに取り合って、業者で注文するよりも新鮮で安い食材を使っている。
- ・急な野菜の収穫には、献立のメニュー変更等で対応している。
- ・価格高騰の際には、食材の変更や、業者の変更等で対応している。
- ・地元産の春野米や、よさこい工房で作られた加工品も献立に取り入れ、給食で使用した。
- ・毎日の食材から出た生ごみは、コンポストで処理し、エコ活動に努めている。



3、食数について

- ・ICT の導入により、各事業所からのお弁当の食数を共有し、1 日の食数の合計や 1 ヶ月の利用者の食数の集計など、事務作業を効率化できるようになった。
- ・3 月より新しい事業所（春乃群青）が増え、1 日約 1 4 0 食（5 月現在）を調理員 4 名で作っている。
- ・5 ヶ所への給食弁当の配達には専任者があたった。
- ・コロナ、インフルエンザ緊急時には、緊急対策弁当でグループホームと連携対応した。

4、衛生、防災について

- ・「HACCP に沿った衛生管理」の制度化に伴い、衛生管理の実施状況の記録、保存等行い、食中毒の予防に気を付けた。食品の納入時には、表面温度もチェックし、食品の加熱加工冷却温度を計り、記録していった。
- ・厨房の床は毎日清掃し、器具は食器消毒保管庫で乾燥し、作業台はアルコール消毒、ふきんは、熱湯消毒をして、安全衛生には、十分気をつけている。
- ・厨房内では専用のスリッパ、帽子を着用している。
- ・2 月には、炊き出し訓練を行ない、災害時に食事を提供するための体制を考え、防災意識を高めた。

5、腸内細菌検査について

- ・厨房職員の腸内細菌検査を、第 2 月曜実施に定めてから、遅れることなく、腸内細菌検査を実施できている。

V. ライフ・タウン あおぞらホーム

VI. ライフ・タウン 蒼空舎

－共同生活援助・介護サービス包括型－

管理者：杉本 郁

1、事業の目的

ライフ・タウンあおぞらホーム及びライフ・タウン蒼空舎において実施する共同生活援助（介護サービス包括型）事業が、日本国憲法及び施設の理念に基づき、適切な運営の確保管理を図るとともに、共同生活住居において利用者の意思及び人格尊重し、利用者の立場に立った適切な障害福祉サービスを提供することを目的とする。

2、利用者の状況

【性別】	男性	6 2 名	【障害支援区分】	区分 1	4 名
	女性	3 3 名		区分 2	2 8 名
	合計	9 5 名		区分 3	2 9 名
				区分 4	2 4 名
				区分 5	7 名
				区分 6	3 名

3、入退去状況

入居者 4 名 退居者 5 名

4、節季・生活の彩り

- ・花と歌う かるぽーとホール (5月)
 - ・高知県合唱祭 かるぽーとホール (6月)
 - ・ビアホール 春野 SP 春野 (7月)
 - ・雲の上の神楽大会 梶原座 (9月)
 - ・土佐牛まるかじり大会 梶原川河川敷 (9月)
 - ・土佐の伝統芸能まつり 高知市丸の内緑地 (10月)
 - ・医療と音楽の集い&福祉フェア 高知市春野文化ホール ピアステージ (10月)
 - ・混声合唱団アンサンブル ソレイユ高知第二回演奏会 高知県美術館ホール (11月)
 - ・高知コーラス合笑団第 63 回定期公演 高知県民文化ホール (11月)
 - ・もちつき大会 あおぞらセンター (12月)
 - ・忘年会 セリーズ (12月)
 - ・迎春 竹ヶ島神社 薬王寺初詣 (1月)
- ・各メンバー誕生月に誕生会を各ホーム内で実施



6、見学・体験入居

高知市立特別支援学校、日高特別支援学校本校、みかづき分校、高知しんほんまち分校、山田特別支援学校、相談支援事業者、ご本人、ご家族の希望に応じ随時、見学者を受け入れた。地域移行をスムーズに行うため、体験サービスを実施

体験入居者 実績日数 36日 人数 4名 (うち1名入居)

7、自立準備ホーム

保護観察に付されている者及び更生緊急保護の対象となる者であった適当な住居の確保が困難なものについて、更生保護施設以外の宿泊場所に宿泊させて行う措置を委託する場合の手続き及び当該宿泊場所における処遇の方法等について、関係法令に定めるほかに細目を定め、その適正かつ効果的な実施を確保することにより、その自立更生の促進を図ることを趣旨とする。

実績… 4名 男性 3名 女性 1名

日数 134日

8、防災訓練

- ・防災訓練 (5月 8月 11月 2月)
- ・災害に備えて炊き出しの訓練 蒼空舎 (2月)



VIII. ライフ・サポート あおぞら

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業 指定一般相談支援事業(地域移行支援・地域定着支援)

相談支援専門員：林 幸孝

1、人員について

相談支援専門員の専従が3名、サポーター1名の体制で行った。令和6年度もいの町の委託業務も継続し計画相談を実施している。

計画作成した方については、ご本人・保護者様の思いと将来的な展望及びモニタリングも含め、各支援機関への計画書の提示を行うとともに障害特性に合わせた支援方法の工夫等の支援依頼を行った。また、サービスの変更や支給量の変更等による対応や施設への見学同行、通院同行や緊急時の対応などの支援を実施した。

相談支援専門員の基本的な抑え等もできるよう当事業所内において、内部勉強会を開催することにより、障害福祉サービスにおける申請等の基本的な事や福祉に関係する様々な勉強を行った。また、高知市などが行っている研修などにも参加してスキルアップが図れるように努めてきた。

2、請求実績

令和6年度請求実績詳細

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
有期・新規	35件	28件	13件	13件	15件	9件
モニタ	22件	39件	18件	36件	16件	40件
高知市調査業務	11件	6件	9件	4件	2件	11件
特地加算	11件	16件	12件	9件	8件	8件

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有期・新規	15件	23件	11件	21件	13件	41件
モニタ	19件	26件	23件	27件	44件	35件
高知市調査業務	13件	13件	19件	13件	18件	18件
特地加算	7件	9件	5件	10件	14件	10件

3、今後の課題

・年々と相談支援専門員1人が担当している人数が増えてきており、利用者1人1人に対しての支援が手薄になってきており、対応に苦慮している所がある。

・計画相談新件の8割近くが精神、発達の方となっており、より専門的な知識や支援の仕方が求められる。

・今年度から高知市委託業務として南部障害者相談支援センターを当法人が担当しており、以前計画相談を担当していた2名の相談支援専門員を配置している。そのため、計画相談のほうには新たに相談支援専門員1名とアシスタント1名が加わり、相談支援専門員2名とアシスタント2名の体制で行っている。相談支援専門員の数が減り、強化型もⅡ→Ⅲに下がり単価も下がっているが、アシスタントの育成を行い、相談支援専門員の初任者研修も受け、一人前の相談員として取り組む事ができるように支えていく必要はある。

障害者支援活動

- ・事業別支援会議を月1回以上、グループホーム世話人会を月2回以上、各事業所別の代表が集まり月1回運営委員会を開催し、情報の共有化、支援技術の向上を計った。また、部会（研修や事業、防災など）を月1回行い、法人全体の情報を共有した。
- ・専門学校や、短大からの実習生を受け入れ、福祉専門職に魅力を感じてもらえるよう助言や、指導を行った。
- ・家庭との連携による支援体制の強化に勤めている。
- ・メンバーの置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じてメンバー及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき到達目標を設定し本人参加の個別支援会議を経て個別支援計画を作成している。
- ・ICTを全事業所で活用し、情報共有を行っている。
- ・生活介護とグループホーム支援者を中心に、「強度行動障害研修」に取り組み、月1回座学や事例検討を行い、支援者のスキルアップや個別支援へ着目している。
- ・年間を通して、苦情理解と対応、リスクマネジメント、意思決定支援、権利擁護、虐待防止などの研修に参加し、研修報告や資料を用いて事業所で周知している。

利用者の地域生活活動

- | | |
|----------------------------|---------|
| ・自治会（基本的に毎月1～2回実施する。） | ・障害者作品展 |
| ・カラオケ | ・陶芸教室 |
| ・旅行（年1回、日帰り旅行又は一泊旅行を実施する。） | ・流しそうめん |
| ・もちつき大会 | ・BBQ |
| ・プールや川遊び | ・映画鑑賞 |
| ・創作活動 | ・花見 |
| ・あおぞらで歌おう | ・スポーツ大会 |
| ・体操教室（あおぞら体操、いきいき100歳体操） | |

※上記以外にも生活のメリハリをつけるためにも四季折々の行事は取り組んでいく。

安全・衛生活動

- ・ 防災避難訓練 ※年度最後の避難訓練は消防署立ち合いで訓練を行った。
 日中事業所・・・3回
 グループホーム・・・4回
- ・ 健康診断
 ●蒼空舎（総合保健協会）
 ●あおぞらセンター、ファクトリー、
 第2あおぞら、GH1 部利用者（高知西病院健康管理センター）
- ・ 給食 咀嚼、偏食の指導
- ・ 衛生指導 感染症の予防（手洗い、うがい等）
 施設内の消毒、検温

職員構成

管理者・・・・・・・・・・	5名（兼任）
事務長・・・・・・・・・・	1名（兼任）
サービス管理責任者・・・・・・・・	11名
（あおぞら／2名内1名兼任、蒼空舎／2名内2名兼任、第2あおぞら／2名内2名兼任、 あおぞらホーム／4名内2名兼任、蒼空舎ホーム／1名内1名兼任）	
相談支援専門員・・・・・・・・	3名（専任）
相談支援助手・・・・・・・・	1名
支援員・・・・・・・・・・	25名
（あおぞら／12名、蒼空舎／8名、第2あおぞら／3名）	
共同生活支援員・・・・・・・・	21名
（あおぞらホーム／19名、蒼空舎ホーム／2名）	
日中生活支援員・・・・・・・・	10名
看護職員・・・・・・・・・・	2名（嘱託1名、非常勤1名）
調理員・・・・・・・・・・	3名
（あおぞら／1名、蒼空舎／1名、第2あおぞら／1名）	
計	83名（75名）

嘱託医・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 名
委託看護師・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 名
会計士・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 名
講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 名
（ちぎり絵、体操、合唱）
家庭生活支援員・・・・・・・・・・ 1 2 名
夜間支援員・・・・・・・・・・ 2 2 名

内部分掌・各種委員会活動

社会福祉法人こうち福祉会

年間活動実績は別紙の通りとなっています。

苦情、相談受付箱に関する報告

こうち福祉会では、よりよい事業所運営を目指し、利用者の皆さんの意見、要望、苦情等を受け止めるために、各事業所に「相談受付箱」を設置しています。令和6年度は、相談受付箱の利用はありませんでした。しかし、苦情や相談事がなかったとは考えていません。引き続き「相談受付箱」を設置し、メンバーに寄り添った支援を目指したいと思います。また、2名の第三者委員の方にも、適宜、相談を行いながら、より良い事業所運営を目指していきたいと思います。